WASON
HQ
1104
J74
Jan
188
no. 9

THE WOMAN'S MAGAZINE.

明治二十一年一月十四日刊行

毎土曜日發兌
一冊正價五錢
府内無郵送税

女學雜誌

第九十二號

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 92, JANUARY 14TH, 1888.

第九十二號

EDITORIAL:— Womans' Self-Esteem.

LEADING ARTICLES:— On Self Conceet. by Mr, K. Suzuki; On Care of Health, by Mr. H. Kato Expresident of Imperial University.

CRITICAL NOTES:— "Kokugaku Waka kairiyo Ron" (How to Improve the Japanese Language and the Poetry). "Shijin no Haru" (Spring of Poet).

MISCELLANIES:— Virtue of Humility: Tokyo W. C. T. U.; Sanitary matters in January, by Dr. Mrs Ogino; Miss Willard's Annual Address.

NOVELS:—Last days of Pompeii"; II.; White Lotus: No, II.

●社説　世話俗言の勢力、及び、女子自重の必要

●論説　生意氣の説(鈴木券太郎)〇衞生のこうのう(加藤弘之)

●批評　國學和歌改良論〇詩人の春

●叢話　謙遜の説〇東京婦人矯風會〇一月の衞生(荻野ぎん)〇米國婦人禁酒會

●小説　奔彪榮華の夢(花貫娘)〇白蓮談(女の學者にも困る〳〵)

●佳傳　ブラッセー夫人〇モラタ

●寄書　中島俊子の詩〇愛他心の詩附

●新報　二十五件

●珊瑚の珠　(第四十八回)

〇歐洲道德史の著者レッケー曰く吾等はスパルタ國の母々及びグラッチの母を驚歎す其愛子が國の爲めに犧牲と爲るを見て涙一滴を出さざるもの何如計りの勇ぞや其他ポルシアの如きアルリアの如き何れも吾々の驚歎して措かざるものなりとれ云へ之に驚くハ彼等元來女性よして而も能く丈夫の尤も勇なるものが倚ほ爲し難しとする所のものを爲したりと思ふが故なり之に反し吾等はハンガリーのセントエリサベス又はミセスフライの如き慈善婦人の赫々たる功績を聞くときは之に服し之を大なりとするハ勿論ありと雖ども吾等ハ之を驚歎せざるべし何んとあれハ凡そ如此き慈善の事業ハ即ハち婦女子固有の性質に於て當さに有るべきの特性に發したるものありと知るが故也。

〇彼の哲學者にして女權論の卒先者たるジョンスチアートミル云く子供の幼ゐるとき其母が之に施す所ろの感化及び年少の男子が其愛する所ろの婦人と合せんが爲めに自から制治するの勢力等は人の氣質を形造るに於て非常の力わり此事即ハち開化の進歩に際し主ある必要なる方向を定るの原因と爲れり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ブラッセー夫人之肖像

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第九十二號
明治二十一年一月十四日發兌

社説

○世話俗言の勢力、及び、女流自重の必要

吾々が平常何の氣も無くして用ひ居る世話俗言の中には寸鐵能く人を殺すの妙文句往々にして之れ有り、話す者は平氣に之を話し聞く者は無頓着に之を聞き其間に左したる勢力を之が爲に授受するとは思はれざるが如しとは云へ其世話俗言たるや元來輿論を結晶し眞理を丸藥にし一厘一グレーンの中に無限の理窟を凝めたるものなるが故に之を話し之を聞て平氣無頓着なるものは即はち平氣無頓着に之が眞理を承諾するものに均し一旦腹中に納まる時は結晶茲に分解し丸藥輙ち効驗を現はし乍ちにして亦た無限の勢力を發して遂に侵す可らざるの運動を爲さしむるの基とは成る也、如此き俗言世話は吾人が冷淡に看過すべきものにあらず。

今先づ此類の尤も穩やかなるものを擧れば蓋し正月遊びに使用するイロハ骨牌の文句ならん歟、云く二階から目藥、云く播かぬ種は生へぬ、云くもちは餅屋、と既でに聞慣れたる吾々の耳には何の音もなからん然れども少こしく心を落付け能く之を噛み砕いて味ひ見るに斯の如き數言の中に千万無量の眞理を凝めたり、若し氣輕るに談す時は二階から目藥と聞いて殆んど抱腹絶倒すべし然れども某政事家の處置は二階から目藥なりと云はゞ何如ん。播かぬ種は生へぬ、農夫之を聞けば然り〳〵と云ふべく、道徳家之を聞けば然り〳〵と云ふべく、生物論者亦之を聞けば亦た之を然り〳〵と云ふべし。故に餅はもちやと云ふ時六かしく聞くものは經濟學者の如く横着に聞くものは怠け者の如く利巧に聞くものは孔夫子老聃の徒の如くあるべし。之を其儘にすれば俗言なり之を伸ばす時は堂々たる大議論あり故に話すもの聞くもの殆んど何の氣もなく授受して而も不知不識の間だに非常の勢力を授受す實に其働らきの驚くべきものにあらずや。

世話俗言中果して如此き勢力あるものありとせば吾々が平常之を談し合ひ僅かなる數語を吐いて千万の意味を通ずるは極めて調寶便利の事なり吾人は敢て之を不可とし有害ありとする者にあらずとは雖ども、既に如此き勢力あるものあるが故に之を使用するに當りて亦た相應の心得なかる可らず况んや元來平氣無頓着に之を談し合ふが故に更らに其の談し方に注意し其の承はり方に多少の覺悟なかる可らずとは思へり。例へ

ば「氏より育ち」と云へる一句の眞理を承知するものは亦た別に「成り上り者」と云へる一句あることを思はざる可らず、失望落膽して「人を見たら盜賊と思へ」と聞し時は亦た別に「人間に鬼は無い」と申す諺あることを思はざる可らず。凡そ此等の世話俗言は明白確定の眞理の一部分づゝを代表するものなるが故に之を話し之を聞くものも亦た其の心得あらんことを大切とすべし。然れども吾人は古へに於て眞理とし今に於て邪道とし古に於て道徳と認め今に於て不道理と認むるが如き意味を代表する所の世話俗言に至つては今日一日も早く通常の談話社會より放逐して其跡を明治の文明時代に遺さゞらしめんことを切望せり、是れ元來平氣無頓着に談し合ふ所ろの者なるが故に亦た平氣無頓着に口より出でゝ腹に入り輒ち茲に分解消化して隱密に非常の關係を及ぼす所ろの大勢力と成ること莫らしめんことを懇願するが故也。

斯る宜しからぬ世話俗言を何如なる者ぞと問ふに先づ其類甚はだ尠からずと雖ども吾人が第一に輿論の注意を喚び起さまく欲する所ろの者は即はち吾々の姉妹女流諸君に關するの俗言世話即はち是れなり。抑も男尊女卑を明白の眞理なりと認ためたる國柄に於ては凡そ何の所ろを問はず皆な婦女子を以て小人外道の雛形と爲すこと勿論なりと雖ども彼の支那及び日本の如く其の喩へ方の綿密なるは甚はだ少かるべし。中にも我國の如きに於ては凡そ人物の宜しき者は男子にして正しき行爲は大抵男子の所行に屬すと相考たるが故に例へば君子、英雄、學者などと云へば其の文字言葉のうちに既でに隱然男子たることを含み居るが如く、亦たニクム、ソチム、コビル等と云へば暗に女らしひと申す意味を含み居るが如きに至れり慨歎の極みにはあらずや。吾人嘗て支那の文字中人の惡事を代表するものに女の偏作多きを奇しみ字書に付て之を取調らべたるに殆んど驚愕の思に堪へざることありき。先づ奴隷の奴、奸物の奸、ソチミニクムの嫉妬、或はサマタゲル時に妨と云ひ、ミダリにする時妄と云ひ、姦と云ひ婬と云ひ媚と云ふの類一々枚擧するに遑まあらず試みに玉篇の如き小字典を取出して女書の部を一覽するとも七百餘言の中ちウツクシ、カホヨシ、ミニクシ、タオヤカ、フトルの如き美術上の形容詞を取除きたらん後ちには殆んど皆な人間の惡事惡行を代表するの文字にあらざるはなし支那人が女子を卑しむの惡習實に極まれりと云ふべし而して我國の風俗世敎は多年此の支那人を先生としたるが故に其の婦人を見ると遺憾ながら亦た彼の支那

人に劣る所ろなきに至りたる也。
左れば今日普通の談話に女子を輕蔑するの俗言世話甚はだ多きにも拘はらず談すものハ恬として之を談し聞くものも亦た恬として之を聞き双方平氣無頓着に女子を罵詈惡口しながら而も不思議なるハ其口と其耳とを以て同時に女權論を談論聽聞す天下の一珍事にハあらずや。試みに注意せよ、玆に容姿尫弱なよ〳〵として春の柳の如く口に黑きものを當て眼に目鏡を懸け介立叙歩、里ならずして喘々焉と溜息を吐く所ろの男子あらんに人ハ之を評して女の樣に弱いと云ふ、然れども是尙ほ可なり。用意綿密注意周到肅々然として容を改ため戰々乎として語ばを謹しみ出るに方あり入るに禮あり一身に分析術を施し處行に幾何學の道理を行ふ程の男子あらんに人ハ亦た之を評して女の樣に小さいと云ふ、然れども是尙ほ可なり。家內及び巨礎の內に辨慶の如く世間に出でゝ兎角に維盛朝臣の如く多少の大事に臨めば動悸急はしく顏色古池の水の如く聲は震るへ胴は震動して小天地に地震あるが如く時に驚愕時に戰栗時に半死半生の如くして而して容易に泣き容易に笑ふ樣なる男子あらんに人は亦た之を評して女の樣に弱いと云ふ、然れども是尙ほ可なり。女の樣に泣くにハ及ばん、女らしく未練を言ふな、女だから分らない、女と云ふものは困まる、女子と小人養ひがたし、外面如菩薩內心夜叉の樣だ、と云へるが如き何れも皆な女子を眼下に見下げて其地位を地獄に陷しいるゝものと云ふべし。凡そ今日普通の談話中苟くも如此き世話俗言を含まざるものを承はるハ極めて稀れなり滔々たる日本滿天下の人悉く不斷に女性を惡口罵詈して而して女子の地位の速かに高まらんことを欲す蓋し筍頭を斷つて竹林の蕃殖を望むの愚を爲すもの也。

然るに如此き惡むべき世話俗言ハ啻に男子の仲間にのみ行ハるゝとあらば尙ほ恕すべきとなり今の如く吾が女流の當人自から之を口にして恬として愧づるなきに至つては吾人長大息して慷歎せざるを得ず斯くして何の日にか女權張り女學進まんや姉妹諸君少しく猛省せざる可らず。諸君ハ兎角空謙遜を以て立派なる禮義と心得女ですから出來ませんと云ふを以て優美なる女德と覺悟し出來得るとにも遠慮して而も陰にて人を評し公衆の面前にて女性惣躰の爲に恥辱を負ひ乍ら眞にサウデスなどゝお世辭を述べらるゝ者あり、尤も甚はだしきに至ては男子を非り男子に小言を言ふとき其樣なることにて何樣なりませうや少と男らしくお成なさいと述べらる元來向ふの

男子に宜ろしからぬ行ひありとならば之に忠告して眞正の人間らしくお成あれと申すは尤も至極の議論あらんが之に男らしく成れとあつては現に其人が今ま女らしくあるに由りて是より改悔して男子の如く成らるべしと云ふに聞こゆ即ハち當の男子を非りて自から非り當の男子よ小言を言ふて自分の同性を輕ろんず恰かも天に唾きして自から汚がし正宗を揮つて自身と切腹するに均しからざるなきか而も諸君現に多く如此きの行あるが如し。嗚呼眞正の謙遜眞正の優美眞正の女德あるものは決して如此き者にあらず、能く其身分を保ち自から其資格を失ハず斷行確立するが間だに一種の愛嬌無限の優美を現はさんと敢えて爲しがたきにあらず、吾人は吾が姉妹諸君が能く其の地位を守り能く其の權力を保ち故意に自から輕蔑卑下するが如き言行の莫からんとを希望す。

抑も西洋婦人の一種の人々の如く男子の前にツンとして誇り男子の世話案内に預かるを當然の事ありと覺悟し本來編物一と通り佛語少々舞踏乗馬の心得大畧を承知したるのみにて交際社會に肩をそびやかし我には女權あり我は男尊女卑の支配を蒙らぬぞと申さぬ計りの處行あらんとは吾人が日本の温雅淑美の姉妹諸君に對して需め參らする所ろにあらず語に云く君子重からざれば威あらず又云く自から輕ろんずものは能く爲す有るなしと吾人が諸君に對して希望する所ろのものは即ハち此の自重の氣象是れのみ諸君よろしく自から重んじて輕からざるの言行を爲せ彼の一種の西洋婦人の如きは是れ亦た一種の輕ろき言行を爲すもの也諸君若し言を謹しみて苟且にせず凡そ人權を無みし女子の地位を卑くするが如き世話俗言は一切之れを言ハず人もし公けに之を談しかくれば靜かに之を避け亦た爲し得べき事は進んで鄭寧温和に之を爲し爲し得べからざるの事は明白に之を斷ハつて勇退し進退ともに實際に出でゝ殊更らに女性を卑しむるの世辭謙遜を爲す可らず思ふに彼の世話俗言の關係する所ろ小に似て實ハ甚はだ大ひなり諸君先づ謹んで此の一事に注意せざる可らず而して吾人は輿論が向後如此き失敬無禮ある世話俗言を放逐して一日も速かに談話社會に其跡を絶たしめしむるに至らんとを勸告して止まざるもの也。

Spring, Spring, has come, while yet the landscape bears its fleecy burden
of unmelted snow! Now may the Zephr gently, give to blow, to melt the
Nightingales sweet frozen tears.

(Anon)

論説

○生意氣の説

鈴木券太郎

世に生意氣と云へる言葉あり此言葉たるや文字自身に於て既に多少の意味あるや將た生利など云る言葉の轉化したるものなるや其邊の事甚だ不案内なりと雖も兎に角斯る輕侮の言葉は世に行はれ居ることなり例へば彼の男は生意氣なりとか生意氣なる事を爲すとかの類なり而して如何なる場合に此輕侮の評の下るやと問はんに必ず其評を受るもの丶行爲動作が時俗より見て行過ぎたる場合に限らる丶が如し故に其時俗者流の眼よりは倨傲とも輕卒とも將た向ふ見ずとも見ゆべけれど其異俗者の方よりは活潑とも勇氣とも將た自尊自重とも思ひ居ることあり余輩之を今古の事實に照らして公平なる看察を下すに此生意氣なる冷評を受け乍らも時俗の上に卓んでたる行爲を現はして敢て顧みざるものは已れ深く心に信ずる所ありて之れが地を爲し其時流の評の如きは左迄介意せず唯己れ信ずる所のものを日月と共に行はんと期するの人に多し而して此等の人は其耐久の氣象を失へば論外なれども然らざる以上は隨分時俗と戰ふて凱陣を爲すもの少なからざるに似たり左れば後世より英雄豪傑の賞を受けたる人は當時に在りては少なくも一度は「生意氣な奴」なりとの時論を免れざりしものにて其遂に之に打勝ちて過去の時論に代ゆるに自己の見識を以てする迄には幾多の冷遇や幾多の侮辱を被りしことなり好運の人は一代に時評の嘲りを脱して而かも之を自己の股下に從はしめたることもあれども又中には生涯を冷遇冷評の間に送りて空く勇氣を北邙に埋めたる人も乏からず到底は時評に勝ちたることとなるべけれども其れを一生に見ずして天命を終りたる輩は實際に數あるべし

ベンタムが少年にして英法改正の議を唱へたる當時には諸所より攻擊劇かりしが何れも確たる理由に基けるには非ずして只一概に「生意氣な奴」「生意氣な議論」と云極めて粗造なる嘲弄なりし然れども今日の英國は刑法に民法に監獄に大概ベンタムの議論を採用したりピットは他人なれば球抛げに熱中する年齢に一國宰相の印綬を拜したる程の人物なれども其施政の當座は老壯輩より毎々の攻擊にて就中時流の輕蔑は潮の如くなりし併しながら其時代より生意氣とも出過ぎたりとも見へし行爲は勇壯活潑の行爲にて後よく拿翁一世の心膽を挫きし散彈なることを發見したりワットの理學的發明は生意氣なりしならんコロンバスの新世界發見は生意氣なりしならんワ

シントンの義兵は生意氣なりしならん人祖論の著者ダーウイ
ンも白帽を被りて佛廷の目を驚かしたるフランクリンも猿面
冠者の木下藤吉郎も平氏を壇浦に沈めたる九郎判官義經も穀
令を廢したる自由貿易の先達コブデンも經濟學者のアダム、
スミスも我れ往くべしとて羅馬法皇の白洲に赴きたるルーテ
ルも佛蘭西のボルテールも獨逸のヘーゲルも異敎の匹夫より
起りたるジスレリーも弱冠にして老將の上へ出でたるナポレ
オンも皆な是れ生意氣と云へバ即ち生意氣の人物なりしに相
違なるべからず否な實に然かる輕侮を經ざるものとてハ一人
もあるなし是れに依て之を推せば生意氣と云へる嘲語ハ如何
なる時代にても少く時の凝結したる風習意見感情好尙と異り
て所謂る超俗の行爲あるものにハ一度ハ責めて懲りたる冷評
あるが如し一面より見れバ余輩ハ人より生意氣とハ云はれた
くなけれども又一面より見れバ斯る評ハ必ずしも避くるを要
せず宜しく謹んで之を受けたきほどなり何となれバ時流より
生意氣とて見ゆる程ならずてハ天下に率先して新風習、新意
見、新感情、新好尙を作り其時代又ハ社會を腐敗零落の中より
救ひ出すこと能ハざれバなり

（未完）

"The scholar and the world." Longfellow.

○衛生のこうのう（其二）

加藤弘之

特に西洋の樣な開化した所ろでハ人々がする仕事が多い、だ
から開けない國ならバ死んで仕舞ハなければならぬ人が西洋
では丈夫に爲つた上に又いろ／＼の仕事を爲ることが出來る。
日本でも築地に盲啞學校がある、メクラ、ツンボ、ヲウシなど
に學問をさせて又仕事を敎て遣、是迄ならばメクラは琴三味
線の師匠になるか其次はアンマになる位のことでヲウシなどは
何にもならぬ、然し今ではヲウシでも物を言るように成て且
色々の仕事を敎ると反て好仕事の出來ることがある。私は嘗て
西京の盲啞學校へ行つて見たことがあるが廿二三の男が金銀に
ホリモノを仕て居るヲウシがあつた、學校の先生が云に此男
はヲウシであるのみか元は眞に智慧のないものであつて何を
敎ても出來ない書とは勿論辭儀をすることも出來ないコンナ馬
鹿者は退校させるより仕方がないと思つて居つた所ろが或る
時他の人が金銀の細工をするものを見て一心に見とれて居た
から一つ之をさせて見ようと思ふて何事も外の事を止させて
之を習ハせた所ろが眞に之を好んで他人よりは進歩も早く來
年卒業する筈だが其上は西京の金銀ホリモノシの中でも指折
になれる程であると申ましたが、開けて來と不具を丈夫にす

るのみか之に仕事をさせて左樣な上手に仕立る事が出來る。然し其元は衛生と醫學の手柄であるから之に付ても衛生や醫術が開けねバならぬことが明らかに分かる、實に不具や病持が命を助けられて其上に世の中の用に立つことが出來るのは全く世が開けたお蔭で昔しならバ死んだ方がよかつたものが今では此樣に幸なものよなれる、昔ならバ不具や病持は若し親兄弟でも死なれて仕舞つたならバ一生人にもてあまされたものが今ではたゞ生かしてもらうのみでなく仕事まで與へられると云ふは幸福大へんなものである。二千年まで前にスパルタと云ふ國ではイクサ計りをして居つたがイクサをするには強いものが入用で強いものが無いと負けて仕舞ふ、それでスパルタと云ふ國では不具や病人はもとより、あたり前の人間でも少し弱いものは殺ろして仕舞つて後來立派な勇士にでもなれるものバかりを生かして育てゝ置いた。今日でも日本から二十日三十日位の船路をする所ろへ行いて見るとまだコンナ國がある其國では國が貧乏で生まれる丈けのものを生かして置くことが出來ないから男の子の弱いものや女の子などは多く殺して仕舞う、之は食物などが足ないから殺すのであるが、猶甚れだしひは親でも厄介計りになる比は山へ棄てる此樣な厄介ものを持てはならぬからと云つて搆ハん山へ棄てゝ殺ろして仕舞う大へんなことだが今日でも尙ほソンナ處ろがある。

然るに今日では不具や病もちまでを、丈夫にして世間の厄介にはせず反つて世の中の用をさせる、みんな開化した國になるのは第一に衛生が進み醫術が上手になることである、して見るとヌた衛生の大切なことは言ふ可らざるほどである。

然し衛生と醫術とが兩方ともに大切だが、其中にも衛生の方が更に大切である、衛生とは用心して病氣にならんようにするのだが醫術は最早病氣になつたものを直ほすものだから衛生は元で大切である、譬へば婦人方には着物が大切だから之をヨゴサナイように破れぬように仕樣となさるものだ、然し若しお客にでもヨパレタとき食物の汁か煙草の火玉でも落ると大變なことでモウわとで直ほさうとしても直らんが若し初めに汁を落さないように、火玉を飛バさないようにしたらば好つたことで斯く最初に用心をするのが肝腎である。醫術よりも衛生の方が先づ大切である、元であると云ふのは即ハち此處の道理である。

然し衛生なども事を盛んよするのに一人〱では効能が薄い皆々集つて仕なければ出來ん、だから此會のような者が出來

るのは大そう宜しいとである。然し此會は貴婦人方の會となつては宜しくない、固よりイカンとは無いが會の効能がうすい、かの流行病などは下等の人々の衛生が行き屆かんから起るもので、コレラやチブス、カッケなども多くは下等の人々が搆はんから起るもので最早一たん流行しだしてからは上中等の人は乍ちまち其害を蒙るとです、一躰上等の人々は自然に衛生に適つたとを爲て居る、中以上の人は洗濯も度々するし着物をも清潔にする食物も一と通りよろしひもので腐つたものなどは食べない家屋も塵芥が少く空氣や光も自然に流通がよろしい、故に此類の人よりも寧ろ下等の人には特更に衛生の智識を開くとが大切であるから此の婦人衛生會は成べく下等の人を導くような心持で仕たいものである。

然し會の事に盡力する人はアナタ方のような人でなければなるまい、どうぞあなた方が盡力して彼の下等の人々を會に案內して衛生上の心得を聞かせるように爲さりたい、そうして衛生の大切なとや其こうのうが能く分つたらば下等の人々でも能く自身で用心するように成る警視廳などから八釜しく云ふに及ばないように成る其手數が大層省ける下等の人は譯が分らないから衛生の事に頓着しないのであるが此の會のおかげて其理窟が分ると大へんに効能がある。

夫だから會員の方々が會に臨まるゝ時は成べく衣物を質素にして下等の人の來易い樣に爲さりたい實に衛生上の害は下等の人々の間だに行はれ易いものであるから先づ之を取除くやうにして諸君が盡力ありましたらば此會の効能は大そうなもので日本の婦人衛生の上に莫大のチカラがあるとでありませうと存じます。

（完了）

批評

（55）

國學和歌改良論

中本一册（六十頁）定價二十錢
發兌所　東京南傳馬町吉川半七

此書は小中村義象氏の國學改良論荻野由之氏の和歌改良論を併せて一書と爲したるものなり國學の部は今ま之を評せず和歌改良の事は女學に關係淺からざるが故に敢て一言すべし。抑も昔時に於て女子が世に聞にたる大事業を爲して其名を讃古に留めたる如きは殆んど在るなし而て只だ文學世界に於て小說に式部あり歌に六歌仙中一人の婦人を見るを得たる如き眞に其由緣あり實に感情の盛んなる婦女子の方々には此類の文字の尤も得意とせらるゝが故なり故に當今小說改良の論往々世に出現するに際し之と共に亦た和歌改良を主張する此論の如きものを得るは女流に取つて莫大の關係あるものと知るべし。本論には先づ歌の弊を擧げて次に其德を贊し後ち現今其の改良せざる可らざるとを述べ所云る改良案として第一に歌題（當世の事柄をも題と爲せと云ふ）第二に歌格（卅一字に限る勿れと云ふ）第三に歌調（趣のみを專とせず少と勇壯にせよと云ふ）第四に歌材（有の儘を唱ふる儘に詠出せと云ふ）と分つて夫々に時弊を改るの法方を說かる一々に尤もなり別に新奇の議論にはあらずと雖ども歌學專門の人にして此言を爲さるゝに至りたるは實に文學社會の大幸福と云ふべし。但し古來歌論を分つて二つと爲せば一は虛飾を主とするに失し一は實際を專らとするに失し遂に改良の途を得ざるに陷いる成程有の儘をすら〳〵と詠出るは結構の事にて詠歌の極意は蓋し此に在るべし然れ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ども凡そ歌を美術の一つとして之を咏出んとには實際を有の儘に咏み得るの前に先づ其情を美にし其念を高尙にし所云る文思を練つて以て錦腸を作り置かざる可らず之には古歌を誦すると名山大川に遊ぶと花鳥風月に戯むるゝとなんど何れも必要の事なり斯て此の錦腸を作り得たるの後に則ち其の念ひを有の儘にすらすらと咏出づべき筈なり然るに彼の有の儘論者は最初に此の修練覺悟を作るの必要を說き置かずして直ちに只管ら實際々々と述べ立つるが故に其論往々歌人に用ひられず空しく一篇の歌論と爲つて埋もれ行くものと云ふべし。故に「其方が啼聲きけば哀しいと猿丸太夫が云ふて置かれた」と云ふも又「うれうこに豆腐の聲ぞきこゆなるおさん出て行け行過ぎぬ間に」と云ふも又「此處小便無用花の山」と云ふも「古池に蛙飛込む水の音」と云ふも何れも皆な只だ實際を其儘に咏出でたるが故にのみ名吟と爲れるにあらず先づ磊落の心、眞率の氣、風流の情、内に熟し得たるものが其の磊落眞率風流をば有の儘に咏出でたるが故に名吟と爲れるに在る也。思ふに此論は少さか謂ふ所ろの實際派の失に陷いるなき乎且や和歌に道德の少き事咏歌者の腹稿（メヂテーション）少き事等の大弊を擧げ恭さゞるの憾あれども本書は即ち和歌改良論の前綱なりし之よりして追々と此の一事に注意する者出來なば眞にうれしきとならん。

(56) 詩人の春

小本一册（百四十一頁）定價
發兌所東京神田神保町酒井淸藏

此書は大和田健樹氏が國府寺、谷村、橘、妹尾、谷、和田垣、鷲山、大和田等八氏の新調唱歌を撰集ありたるものなり。之を新躰詩と云へりしものに比ぶる大に優される所ろあり和歌改良の進路一段を登り得たりと大慶の外なし。新躰詩は句調アホダラ經の如く佳ならざる所甚いだ多かりしが此集に載するものは格調稍ゝ宜きを得て吟唱するに面白味あるを覺ゆ元來反譯は少くとも著者と同樣の苦辛を要すべき筈なるに堂々たる西洋の詩聖が錦腸をしぼつて咏み出でたる者を僅々一二日の中に速譯するが故に元情の寫り出でざるは勿論なり此集に臨んでも亦た此の憾なきにあらずとハ云へ左樣に宜きを求るは抑も難し。集中「あの人」の如きものもあれど亦た特に卓んでたるもあり中に尤も秀でたるは國府寺新作氏の作もしくは譯に係るものなり今ま其の瓢の歌一篇を左た錄す

淸人王吉武が許由瓢と題する詩の意を演べて歌を作る。

汚れたる耳を洗ふてさつぱりと、浮き世の事は塵ほども、わが潔白な精神を、犯さすまじと意を決し、天を笠とし地を床と、なんの氣もなく獨歩する。つれはひとりもあらねども、腰にぶらつく瓢簞は、これぞわが身にともなうて、いつしよに去るもよからうと、いでゆくうちに日は西に、落ちてそよ〳〵風さむく、たとひ心は大乘の、宇宙をのする量あれど、こまるはくだらぬ骨と肉。疲れて息ひねむくなり、腰のへうたんとりおろし、あたりの枝にうちかけて、いびきたかだか寐るほどに、風は夜に入りつよくなり、瓢簞がらがら木にふれて、いびきを消せば夢やぶれ、ねるにねられずむつくりと、立つて瓢簞もぎとつて、微塵になれと投げすてつ、さても外界のうるさゝよ、天地もとより大ならず、かれこれするにはおよばねど、瓢簞もとより小ならず、惜しからざるにあらねども、ともにうき世のものなれば、うちやりきよくひとねむり。

●正誤　前號に批評したる通俗理科叢談の著者石井よおと云へるは全く婦人と心得居りたる處ろ某氏より「同氏はレッキとしたる男子にて現に某學校の教師にて候」と辨じ越されぬ日本人の名前に「よお」と云へる男子は餘程珍らしきとなれども兎に角現に然りとあらば前批評は全く取消すべし何んとなれば該書は女學に直接の關係なし只だ婦人の著書たるの點を以て例に依り愚見を述べたるが故なり。

叢話

○謙遜の德

謙遜とは俗にヘリクダリと申し甚いだ尊とむべき德である實際何如ほどに學問が出來たりとも又好んば何れほどの才力が在ると致しても若しも其學問を鼻にかけ才力を肩に荷て人前に横風な樣姿を致しまするならば誰れも之を愛するものはありますまい夫故に才學世に秀でゝ大に立身出世したる人にしても只だ此の謙遜と云ふ一つの德を欠きたるが爲めに最初に先づ知人の惡しみを受け次に公衆の惡しみを受け之よりは何如ある名論奇策を申出しても其事中々に行はれずいよ〳〵以て世に疎まれて遂に地位名望を全く失ふに至るものでありまする之を以て古へより世に大事業を立てたる英雄豪傑は其志大きく其氣甚はだ壯んなれども人に接するときは温厚寛容に

して絶えて其才學を誇らず眞ことに能く人に下るの德を守りたるものである。

夫れ故謙遜と申すことは 男女老たる若きの差別なく何人にも皆な一樣に大切なる心得ではあれども取分け女の方々は此の一德を重んじなければ相成らぬことゝ思はるゝ、例令ひ凡べての持物を施こす所の慈善を爲す婦人なりとも若し自から之に誇るときは何の功かあらん山を移すほどなる力量ある婦人なりとも若し亦た自から之に驕ぶるときは何の益かあらん只だ人に惡まれ踏まれて世の端に棄て去るべきのみ。之を以て學力にをごり器量にほこり衣裳のうつくしきを人に見せ觸し良人父兄の地位權勢に鼻を高くし兎角に己れを先に出して人を後にする如き婦人あらんには見るもの皆な爪彈きして之を避くべし、斯る婦人こそ眞にあはれむべきものなる哉。

然れど茲に謙遜とは何如なるものかと云へることに付て少々申述べたきことあり。元來謙遜の意義はユヅリユヅルと云ふことにて我國の世話には之をヘリクダルとは申せり必竟人樣を利口なりとして自身を愚なるものとし人樣を先きに立てゝ自分を其後に置くことにて甚はだ以て温和しき心得方であるが此際一つ注意致さんければ成らぬ次第がある。則はち人樣を利口なりとして自身を愚なりとするは我が心中より眞に左樣に思うて居るとか何如んと云ふに中々そうで無いナニ此樣な詰らない奴がとは心の奥底で思ふて居ても只だ表向き彼人を尊敬して甚はだお利口であると立てゝ置き又た自身の才能は爪をかくす如くに秘して置て以て自身を愚なりとし彼を賢なりとする譯で一言すれば心で思はぬことを口に言ふ即はち一種のアザムキに過んことである、又人樣を先に立てゝ自分を後にするも之と同樣で迚もあの人に出來る氣遣ひは無い己れが致さんければ甘くは參るまいと心に思ひ乍らもナニ私しにどうして之が出來るもので之は全くあなたに願はんければ成らぬなどと申す譯で是又た腹に無いことを口に述べ立つる一種の世辭一種のウソと云はなければ成らん。然し或る人は申しませう人を利口とし人を先に立つるは決して故意に欺きウソを吐くと云ふ次第でない全く以て心から左樣に思ふのであると云はれませう、然し夫れでは謙遜に成らん謙遜とはヘリクダルと云つて己れに十丈けある才力を六つ七つに見せ能ある鷹か鼠とる猫に形取つて其爪をかくすものである又ユヅリユヅルとも譯して只だ己れにも出來得ることを人よ讓り人にさせると云ふ丈けてホンノお世辭お上手に向ふを立てると云ふに過ぎない然

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るに之が若し眞實から人を利口と思ふて自分を愚なりと考へ心底から人を先に立てゝ自身を後にするならば之は即はち眞正の愚人ひけうもの正銘の臆病卑屈者である。故に今日普通の教へにて申す謙遜と云ふことは元來決して惡るいことでない交際上には甚いだ宜しきを得たる心得方ではあるがマコトの道徳から申して見ると一種の欺き一種のウソで非常に賞むべきものなりとハ云ハれない、左樣に悟つて見ると上み皇帝が位に就くときハ前に面つて一度辭退なさい北に對つてモー一度辭退なさい都合三度ユヅリユヅりたるのちでなければ位に就く勿れと教へたるは即ハち極の上流から一種の欺きを教へたることで之れより以下彼の「坊や餘所に召ばれたときはおツユが何れほど味好くても二杯しか反へられません一杯は減じて置なさい、孃や人樣がお前に一曲彈じてお見せなさいと申されたら何も存じませんとお斷わりなさい」と云ふに至るまで之れ亦た一種の欺きに過んことである。ト斯樣に悟つて見ると謙遜は甚いだ面白からん僞善者僞君子が爲すべき僞はりの心得方であるように思はるゝが左すれば人にユヅリユヅルとは宜しくないのか人にヘリクダルのは宜しくないの乎と云ふと決して左樣では無い。吾人は彼の謙遜を致すときの心得方が若しも前に申すやうなる心得から致すならば則はち一種の欺きと相成るであろうと云へるのみで若し次に云ふ如き眞正の道徳に隨つて謙遜を致すならば啻に欺きウソ世辭と云ふ如き好ましからん弊に陷いらざるのみか眞の道に適ひ眞の德に合する最上至極の立派なる心得方になるであらうと存ずることである。（未完）

○東京婦人矯風會

去る九日正午矢島姉の招きに由りて東京婦人矯風會の祈禱會に臨みたり此日は府下各部の議員達大方は何れも打揃ハれて出席あり特に數多の勸め誠實なる祈禱もありたれば終る比ろ余も亦た少さか思ふ所ろを述べたり預ねての仕度もなく申したるなれば其辭ばハ固より調ハざる節々多かりけんが其主旨に至つては平生確信して止まざる所ろなるが故に遂に記して在地方の同會員諸姉に告げ其の批評を仰ぐに至ると云ふ。

敬愛する姉妹、凡そ主の道を信奉する者一生の務めは終始上帝の御心を躰して其の御道を世上萬般の事物中に吹込むに在りと存ぜらるゝが今や女學ハ何如なる方角に進み行くか女風ハ何如なる方向に改良し行くかと考へ我同胞姉妹をして一歩をだも曲れるの途に立入らしめじと希望さるゝ方

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

々に取つてハ尚更ら其眞正なる道德の精神を世上に流布して一事をだも眞の道に適はせたしと願望せらるゝとにて候ハん則はち上帝の佑助に依て世の惡風を矯正せんとを盟つて本會に入會せられたる方々は恰かも右に申す所ろの御覺悟あらせらるゝとと存ず。

然らば諸君が其覺悟を以て世上に打て出で滔々たる惡風俗を切り拂はんとせらるゝに當りてハ彼の主が一千八百餘年の昔しに於て其道を傳へ玉へる當時の御决心を躰し其の遺し置かれたる方法に隨つて矯風の事業を爲さるべきとと信ず、主は何如なる方法を以て傳道せられたる乎笛吹けども踊らず哀めども胸うたざる冷淡至極の罪人どもを相手にして只だ信切に其教を諭とされたりと記臆す、當時主を立てゝ一國の王と爲さんとしたるものもあれども主ハ枕する所ろもなく流浪漂泊するとを以て安んぜられたり其智ハ學者を壓倒するに足れども愚かなるものゝ幼きものを顧みて信切に教を與へ玉ひ其力は山を動かし波を平らぐるに足れども弱わきもの衰ろへたるものを愛して信切に教を與へ玉ひ純清潔白雪よりも美なる所ろの御心を以て稅吏、淫婦、盗賊、裏切手をも棄てず尙ほ之を愛し玉へり、若しシーサー、ナポーレヲン、始皇帝の徒を豪なりとする程の者より之を評せバ彼のナザレ村の耶蘇基督は何を致して居るやと定て嘲笑せしとあらんと思はるれども眞正の大事業ハ一夜にして現出したる富士山を羨やみ望むものゝ决して知る所ろにあらず。只だ之を一つの事業として考へ見も基督の事業小にしてシーサー等の事業大なりしや何如ん宜しく一考いたすべきとに候はん。即ちカイザルの權勢の如く消て羅馬帝國今ま何處に在る、セントヘレナ空しく墳墓を留けども佛の帝權今ま何處に在る、六國合從の跡ハ二世に續かず萬里の長城空く立つて用を爲さず始皇帝の功績今ま何處に在る、云はく一つもなるなきに候はずや然るに主一生の事業ハ貧窶無知の下等人物十二人五百餘人を門弟と爲し得たるの外何事も無りし如くなるに其の最と小さき事業と見えたるものハ爾來永遠に發達して遂に今日萬國中主の爲に死を决するもの幾千万あるに至りたるにハ候ハずや。然らば凡そ主の道に隨つて世に事業を爲すものゝ覺悟は必らずしも今日に眼を驚かす程の事物を造り出さんとにハあらず未來永遠に續き一度び得たらバ復た失ハず一度び出來なバ復た滅せず漸次に發達して遂に天に達する程の大事業を幾千年の間に

於て始て大成するの目的なりと信ず。

故に諸君は今日最と小さしと思はるゝことをも喜んで爲し玉ふべし最と謙下りたると思はるゝものをも喜んで爲し玉ふべし假令ひ世に聞えず人に見えず一生名もなく沒し了る如き事にても亦喜んで爲し玉ふべし必竟其事が若し永遠に續くべき事業の一部分にて在らば則はち天下之よりも大なるものはあらずと存ぜられ候、願くは廣告主義見榮主義外見主義等の處置の決して此會中に行はるゝと無きように只だ今日一つの石を取除いて一つの礎を置き明日一寸の土を積んで一寸の角石を置き日又日、年又年、の業を積んで終局天に登るの梯を落成し吾々の勝利を永遠の後に期望せらるゝように致し度事と思へり。但し吾々の事業は斯の如くして少しにても多く上帝の御心を万づの事物の中に吹込まんとするに在るとあらば則はち亦た蛇の如く智とくして少しにても宜しき方法を取つて吾々の働らきを爲さゞる可らず好しセメンに砂糖を混じ粉藥を丸藥にして金を塗るとも必竟は其藥を腹中に容るれば可なり吾々今の社會に立つて上帝の道を擴張するには亦た如此き手段をも必要とすることなれども一言すれば即はち成べく多く成るべく早く成るべく平和に主の道を万般の事物中に吹込むに在りと申すべきあらん、希はくは姉妹方婦風上の靈力をして一歩をだも此の方向より離れしむること莫らんを祈る。

○一月衞生の注意　　萩野ぎん子

人此世に生れ出でゝは健康無病にして長壽を保つより幸ひなるはなし然るに無病健康にして長生せんとには先づ衞生の道を守るより先なるはなきとあるが衞生の事は百般なれども其中飲食をつゝしむより尤も先きに大切なるはあらず。

就ては此頃正月の儀式なりとして用ゆる品々の中に不養生のもの甚はだ多きとなるが彼の餅、數の子、きんぴら、午蒡の如き何れも不消化物なるが上に鹽からきもの多ければ之を食したるのちに多く湯茶を飲むもありかた〴〵以て不養生極まりたるとあるが其上にも七草粥雜煮の如き非常に熱きものを食し又は胡椒唐芥子などを用ゆる等總べて胃病の源となるものあり聞く所ろによれば西洋には胃病の人我國程に多からずと云へり余は彼此の差を割出して明白に申すとは出來ざれども必竟我國に此の病人の多きとは明らかにして而して此病の多き由縁は即はち前に云へる如き不養生の品を食するが故にありと云ふべし。

故に一月の舊禮に泥みてわざ〳〵色々の不消化物を集めて食用する如きとは速に全く止めたしと思ふとあるが斯る事は先婦人方が奮發すれば即ち直ちに止むとあり大抵の男子は皆あ之を煩はしとして止めたく思ふ程にても婦人方が特更らに其式を墨守せらるゝと云事情もあるやに見えぬ凡そ飮食を掌どり家內の衞生を擔當すべき婦人方が自から一家の不養生を來らするの源と成りては實以て申譯あきことと思はれ候伏して姉妹方の注意を乞ふ。

〇米國婦人禁酒會

昨年十月米國婦人禁酒會第十四年々會を開かれたる節會頭ウイルラルド孃が例に依りて演說ありたるものゝ中ち左の一節は實に万國に通ずる矯風事業の隆盛を示すに足るものありとて中川永輝氏より抄譯して送られたるに付き左に掲ぐ

萬國婦人禁酒會

吾々が此重大なる企望の駸々として其道を保ち進むとは既にユニチンシグナル雜誌を讀む者の知る所ならん一宣敎師筆を採つて其宗敎雜誌に記すときは水師提督ペルリの日本行は商業開市の事よありしも此度レビット夫人の日本に參られたるは左にあらず日本婦人の爲めにありと云ひ、又一「テンペランスマン」婦人矯風會を組織なさんと欲し南アフリカのナタルより送し書簡に接せし時は吾々は已に十字軍の思想は普ねく各地に通じたるとを知り得べく、我が會頭の眞影傳記を日本の女學雜誌に掲載し且つ東京婦人矯風會々頭及び書記の寫眞を我々に寄贈せられし時は亦是万國の矯風會は漸〻歩を進むるとを覺へ、錫蘭よて未だ嘗て吾々の請取事なき大なる世界の請願書を送付せしときもパンコックに於て我代理者は親しくシャムの國王に謁見を得しとを聞くにつけ陰に不明の東印度も最早面目を改むるとを知に至れり、故に若し不屈强梗なるレビット夫人にして世界漫遊を終て歸帆の時に至らバ最早之を擴むるの餘地なくして遂に月の世界に登り白色皚々たる雙角に白紐を纒結して將に天上も限りなからんを欲し余に向て望遠鏡及び輕氣球を請求するならんと考へ居れり然れども夫人は以前に等く著々歩を進めて未だ歸鄕の思ひだも出さず印度は從つて音信を通じ婦人亦探究に用捨せず行く處に其支派を設け夫より進んでマダカスガル、アフリカ、小亞細亞其他妾の預り知る所にあらざる程限りあからんされば吾々はレビット夫人の經過せし凡べての塲所に再閲として送らんが爲め

或る適當ある婦人を派出するは本年斷じてあさんと欲する處あり是れ實にレビット夫人の熱望のみあらず布哇、チーヌタラリヤ、日本の諸州に於ても最も熱望する所なればなり他事と等しく此の派遣の事に於ても吾々は自由の便宜を謀らざるべからず費府にて適用したる規則にては委員一人毎に五錢づゝ凡ての補助費を募りし事あれば本會に於ても吾か英國姉妹のあしたる如く我米國婦人矯風會が世界婦人矯風會よ補助をあすと等しく我州會に向つて一定の經費の寄附を整理せんと欲するなり若し此事にして成らば是實に世界を周馳する一陣の疾風の如き火輪の金鎖に吾々のみを觸を得せしめ本會こそ矯風會の高名を保つを得べし然れば我が熱心なる祈禱に加ふるに耶蘇の王國の各處に矯風會の設立を請願することそ長く鴈金の鎖を保さざる事なるべし

小說

"Women govern us; therefore let us render them perfect; the more they are enlightened, so much the more shall we be." Sheridan.

第一章　奔府の二紳士（二）

Last Days of Pompeii.

英國　笠頓先生　原著
日本　青笠小史　譯述

苦弄日亞士は今車中の紳士を見て滿面に笑を堆かくし苦「ヤ廣朗加士君、君は昨日の大敗北にも似ず毎も亞波兒路（神の名）の聖氣を受たるが如く顏色の光り耀きて愉快しげあるは如何なる理由ぞ知らざる者は昨日の勝負に君が大勝利を得たりとや思ふならん、と打笑へば廣朗加士も共に笑ひて廣「此は苦弄日亞士君のお辭とも覺えぬもの哉僅か金錢の損得ぐらゐて我々の大切ある精神を沮喪するでも御座るまい我々が比那士（神の名）の恩惠に頼て未だ頭髮に花飾を戴く間、又耳朶に金銀の響を聞く間、又律地亞、周兒（二神の名）の笑容が血液の流動盛んなる我々の身躰を光す間は如何ある事にも失望するには及ぶまじ我々は此の愉快なる時間を以て我が金庫とし心に飽足る程使用せんと思ふものを何條一夜や二夜の勝負を以て此の快樂を失ふ事の有るべきや、其は扨置き君は今夜の晩餐を忘れては居玉はずや（苦弄日亞士は頭を搔ながら）苦「例もあがら君の濶達の議論には閉口するゾ又今夜の宴會着到の第一には拙者の名前を君に披露さすべしと思ふなり廣「有難し〳〵シテ君ハ今何方へ徃き玉ふ苦「風呂へ行んと出掛たるが……併し未だ一時間程早い樣あり廣「然らバ我等も車を返して君と散歩の快樂を取るべし、とて廣朗加士は前足よ

て土を掻く馬の手綱を鬣髪の上に投掛つゝ車を下り「好々比里亞西（馬の名）と胸の肉を輕く手掌にて打叩けバ馬ハ意を得てや低く嘶きて双の耳を後邊へ反し恰も主に告別の禮を爲すが如し　虞「好〻今日ハ汝が爲の休暇日じやぞ、何と君好い：：可愛ゆい奴でハ御座らぬか（苦弄日亞士も馬の鼻を撫ながら）苦「弗伯士の廟祠へ納めるものか然らずば君の馬車に繋るより外にハトンと無い馬です、と寄生物の華族（寄生物とハ他の甘液を吸ふ物と云ふ意義あり猶我國にも末社抔云か如し）ハ褒め立たり

第二章　賣花娘　（一）

斯て兩個の年少紳士ハ互よ袖を列らね手を握りて種樣の事ども語りあい大路を散步しつゝ行く程に此府の十字街とも謂つべき最も繁華ある街へ來りぬ此所の景色の概略を云へバ街列の家々ハいと大きに手廣く造り做したるが軒先ハ一樣よ浮彫の彫像を以て美麗に裝ひ又街の角ある場所にハ巧に裝置たる噴水ありて玉を散す泉に熾くが如き炎暑をも忘られて通行の人、寧ろ逍遙の客と云ふべき往來の人ハ、大方帝兒の紫色なる衣裳を穿ちて那方此方ある商店を物買ふともなしに素見すめり其中に其人の汚穢あるとハ相應しからぬ精巧の細工に風流の形狀したる黃銅の水盤を頭に戴きたるハ奴隸なり、都人士の都雅に羞てや頰を赧らめたる菓物（熟菓を云ふ）に父祖の伊多利人にハ袖褄を引れたるも其子孫等にハ炊婢とも見做されざる花嫁（古昔の伊多利人ハ太く花を愛したるも此の子孫たる今の羅馬人ハ何故にか花を好まず故に斯く言ふ）を籠に盛りて婿人（買客）を待顏なるハ田舍より出たる小娘なり、此の繁華の中に交りて怪しの小家の其處此處に見ゆるハ則ち遊蕩家の集合所にて恰かも今の世の珈琲店又ハ倶樂部の如き役目を勤むるにや有んずらん又大理石の架棚にハ酒又ハ油の瓶を排列べて入口にハ紫色の遮日布を掛け其下に八九脚の椅子を置て若き女子の人待顏なるハ路に勞れたる旅人を憩はせんとの料なるか否破落戸を引入て遊バせんとての設けあるべし、斯く美麗にして活潑あり風流にして温雅ある此府内の光景ハ雅典人（希臘）たる虞朗加士の腦裏にも自ら愛を割く能ハずして永く此府よ足を停むる一大緣故なりとハ知られたり

虞「苦弄日亞士君、君ハ先刻から羅馬〻〻と羅馬のことバかり云はるゝが、モウ羅馬の自慢話ハ廢にして呉れ玉へ我等ハ羅馬ハ大嫌ひなり一躰羅馬ハ都ての遊戲が鄭重過る又觀る物も壯大過る例へバ涅羅の金殿に行て見ても又智多士の宮殿を見物

するも何も餘り廣大に過ぎて眼も勞れ腦にも厭が來る其上我等が故郷(雅典)の風の高大に失せず猥陋に陷ず百事其中を得たる態と彼府の馬鹿々々しき華麗豪富に誇る躰とを比較すればバ心中に毫も愉快を感ぜず益々不滿足の念を生じる‥‥併し又此の都府(奔彪)に來て見れバ右の俗人の眼を驚かし田舍漢の魂を奪ふ呆贅澤の驕奢とても先づ無き方にて諸事風流を旨とするハ我等に於ても甚はだ感服する所ですされバ我等の眼で評すれバ羅馬ハ惡甘きと蜜の如く奔彪ハ稍澹泊ある糖水の如しとでも申さん歟　苦「ハヽア然らバ君が當夏此地で暑を避らるゝも全く右の思召に叶ひたる故で御座るナ　虞「如何にも左樣、我等ハ猶奔彪ハ貝塋よりも好いと思ひます彼地(貝塋)にハ種々の古跡また好風景の場所もありますが何分其地の人間が氣に入りません何が扨て彼地の者ハ降らぬ奴までが學者振て一ドラムの遊樂をも衡秤に量て見ると云ふ風が御座ッて
苦「然し足下ハ元來學者がお好でハ御座らぬ歟殊に詩賦の事となッてハ例も足下ハ我家にハ英西羅斯の諸保馬の淨瑠璃抔どを巧手に語る藝人も抱へてあると御自讃なさるでハ御座らん歟。

○白蓮談

第二回　女の學者にも困る〳〵

月の舍しのぶ

十數疊敷の半西洋間三方の白壁ハ煤氣を帶びて暗らく正面のボールドハ白墨の粉に塗れて殆んど白ろし畧言するに田舍娘が化粧したる如き一室の內に机數脚椅子十七八脚不規則に並らびたる此方に暖爐あり其右左に相對して奧底なげに打語らふ二人の少年を見る、一人ハ日陰町あたりにて辨じたるか背廣の服何處となく落附あしくヅボンハ膝の上に腫物を出して痛ましき樣ありシャツの垢附きたる靴の膨らばみて割れ線を現はしたる毛髮をどろに亂したる如く亂れたるなど其の裝ほひに於てハ一點の取り處ろなき亂暴書生と見ゆるが靜かに其風采を觀ふに甚はだ敬すべきものあり面ては少し長き方にて眉毛秀で口元締り色クッキりと白くして眼頭に懸けたる眼鏡と能く相映ず昂々乎として談論するの樣ハ身すでに國家の重きに任ずるが如くあるも亦た飄々然として事物に局促せざる恰かも心を塵世の外に置くの姿あり何さま心得あるべき一人物と認めたるが今一人の書生が連りに之を先生々々と呼ぶに由て考ふれば年配は同じ程あり衣裳は反つて劣れりとハ見ゆれども既に若干の弟子を受持ち一科の授業を擔當する當學校の教師とハ知られたり。次に之に對して無遠慮に談話するう

ちにも時々例よりも少し頭を低うし偶ま謹直なるハイ〳〵の應えを發する一少年は洋服一と通り揃つて差支へなく靴は殊に光かり髪は立派に梳り分けたるが身材低くして總身やゝ肥とり顔丸ろくして赤く眉太くして薄く唇厚くして上下甚れだ睦まじからず笑う時は出歯を尚更らに現れして童顔を其儘、に失はず枯れたる音聲物を親にねだるが如く怠けたる行作一身をも尚ほ懶うしとするに似たり。

彼の教師と認めたる一人物は薪をストーブの中に投げ入れてトンと戸を閉て丈伸を仕ながら椅子に倚り懸りてヅボンのかくしに手を入れ

夫はそうと君の妹さんは何樣なすつた

と問ひ懸けられ何におれですかと云へる冷淡なる樣姿をして殊更らに一寸ツとストーブに注意し乍ら

ハイ相變れらずの變物で書物ばかし讀みたがるのにはどうも大困りです夫れに私などがたま〳〵家に歸りました時などはヤア此處のイットは何を受けて居るのだヤアあそこのザットは何の關係があるのだなどと問れれますのには面倒で〳〵仕方が無いのです、だが宙に面倒あるのみは好いですが時々分らない所ろを聞かれて殆んど困却を極めますよ知らないとも云へず此樣だとも云へずヤイ面倒臭い、女などが其樣に書物にかぢり付んでも好い、位ひで追拂ひますがアハ、どうもおれにも弱れりますよ

フヽンと鼻であしらつて眉毛に少し皺を寄せ腮を下げて少し考ふる樣をし乍ら直ぐに氣を取直して笑ひを催うし

ソリヤアどうも非道いじやあ無いか夫程どに篤志であるものを何んとか工夫をして勉强をさせるとは出來ないのでせうか、君の御親父は有名の漢學者でもあり一躰君の家には學者の遺傳が在るのだからイクラ女だからと云つて出來んものヂヤアない一ツ學問をさせなすつたら何如です君が第一に周旋せんければならんヂヤア無いか

話しが本統に成つて來たアヽ嗚呼面倒だと思ひ乍ら教師とあれば正かに茶かすとも出來ず其儘ぢつと眞面目に落附き

ハイそうですが父が御承知のような漢學主義で其上え家のきまりが實に嚴密極まる者ですから中々當今の風に從つて女學を大切だと思ふようなとは少しも無いのです父が妹はもし仕込んだら隨分出來るであらうとは時々申すとがあリますが其の出來るのが即れち女の身に取つて爲めに成らん女は左樣何も學問に達しなくとも貞節にして夫

に從へば宜しひと云ふ議論ですから私が申しても迚も聞ませんのに困りますよ

夫は純然たる漢學者の議論で昔しならば夫で好つたです然し今日と成つて未だどうも左樣云ふ考へで御出のは實に歎息すべきことジヤアありませんか尤も貞節にして能く夫に從ふと云ふことは勿論今日に至つても矢張り同樣に大切なことで今の女だからと云つて決して夫に從はなくて好いと云ふことは無いが貞節であると云ふことと學問をすると云ふことは何も矛盾することジヤア無いので彌よ學んで彌よ優美の貞婦人となると云ふのが即ち當今の女學で大切の目的とする所でせう、君がそこらの邊をちつと說いたら好いじヤアないか

尤もです然アし、そうです然アし、議論はさうです然し、と二つ三つぐど〳〵〳〵を口中にぐつと飲み込む此男困却するときは笑ふの僻ありズット躰を伸して足を踏出し顏を揚げ頬を赤くし兩手を頭の上に載せてアハヽヽヽ、

然し(漸くにして然しを出す)先生女の學者にも困るシヤアありませんか僕‥‥私などはいつも鎗込められる方でまあ〳〵出來ない人物の方が適當でせうテアハヽ、

佳傳

○レーブー、ブラッセーの肖像

本號の第一葉に掲げたるは去年九月世界漫遊の途次に於て卒去したる朗度ラッセー夫人の肖像なり夫人は生來活潑にして乘馬漫遊を好み一千八百六十年に於て今の夫ブラッセー氏に嫁がれたるより此方共々に所有の持船に乘じて所々を航遊し殊に近年は世界周遊を思ひ立ちて既でに其途に上り過る年九月喜望峯に向つて進行する比ろ不幸にして遽然として永去されぬ。夫人は元より名を好みて筆を揮はれたるにはあらずと云へど其好風名地に着して感情の禁じがたき折り只だ其見る儘に記して友人知己の間だに送られたるが遂に世に公けに成りて甚はだ廣く行はるゝに至れり。其が中にも彼のサムビーム號航遊記の如きは知れる者より知れる人に傳はりて後には純然たる公けの印書と相成りたるのみか所々の本屋は之を轉刻し數多の學校は之を教科書に用ひ諸國の國語にすら之を反譯したるものありと云へり。而して其外に右樣の次第に由りて遂に著書と成り行きたるもの五つ六つあるが何れも皆な文章淡にして麗一種言ふ可らざるの面白味あるが故に扨ては

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

斯る非常の喝采を博せらるゝに至りたる也。デ、クインシー云く凡そ近世の英文の尤も妙なるものを獲んと欲せば須からく郵便局に行いて郵便一包を取り其間より婦人の手にて書かれたるものを撰み出すべしと云へり蓋し女の玉章の中に尤も名文章ありと云ふの意あるが右ブラッセー夫人の文辭は即ちクインシーの所云る書狀の躰にして而して能く艶なるものなるべし。

○チリムピア、モラタの傳　（其二）

然ればチリムピアが夢中に畫きし希望は今や將さに其實躰を顯はさんとし運命の經路は遙かに開きて學問の快味其中に見ゆこれが前面に立ちてこれを望むチリムピアが心中進んで之れを執へんと欲するの念火を以て熱せらるゝが如し然れど蒸して雲の如く發散せず御りて又義務の念ある月を浮べて流る淸泉の如く其書を愛するの熱度は正さに子女たり姉妹たるの分を盡さんとする心の熱度と平均せり然れば其腦髓を鍊磨するが如く又其心靈の修業に心を用ひ神に事ふる厚く人に交りて慾なく心の中の潔らかなる時は名譽を得なんと欲するの念は多少胸裡に往來するも智識を愛するの慾望ぞ其最高位を占めたれば紅粉青黛に虛擧を買ふの餘暇なく時の許さん限りは文學の思想世界に逍遙し至上の快樂を探らんと望みたれど又輕忽にも其身の分を忘れざりけり

ア、オリムピアが爲めにはフェールラの王宮ぞ最上の樂園となり身の修業も茲處に出來才の發舒も茲處に得られ又善良なる敎師の薰陶も茲處に受くるを得ば其門閥と云ひ其學識と云ひ共に高き縉紳學士と茲處に團欒交話するを得れば其快樂は極りなく其の喜は盡きざれば父と尊むシリアン、シナッピに書き寄せし事あり

……妾が此精神は神聖の手にて作られ哲學者の所謂月宮星宿の中に輝く不滅の火にて燃やさるゝものと存候得者此の世に在りては只〻學問の勉勵によりてのみ完たくせらるゝ事と存候まゝ愈攻學の貴ぶべき事切に感銘仕候に付ては設如縫針紡錘は女の務とはいへ彼のモーゼスの好音を聞けば其調高く其律妙にして妾が心を牽く甚だ切に候て最早堪へ難く更に餘力無之候さなきだに紡竿は嘗て妾を顧み申さず機樓は嘗て妾に言を寄せ申さず恰かも妾に於て一面の識なきが如く餘り薄情存候得者妾は永遠の告別を彼等に告け申候然れば今に於ては只自ら恐れ候は彼の順風を得て帆を忘るゝ水夫となり申さん事々のみ候

斯くもオリムピアは男子の氣象を持ちながら又女性の心胸を供へたれば其中に含む天然の美質は燦かに骨髓の外に顯はれ自ら靑襪社會(誇慢なる女學者)の水平線上に在况して幼時より交はる所は俊才達識の社會にして求むる所は人の注意と尊敬とに在り而かも王宮の裡に優雅の風采を學ぶを得たれば其内に在る美質を研磨せんにはあらん限の良法を用ひ且つ其の全力を盡せしとことなれば崑崙の玉豈に其先を發せざらんや紫閣丹樓紛昭曜璧房錦殿相玲瓏と詩人の詠みし宮殿も爲めに其美を失ひてオリムピアの光ぞ獨り宮中に輝きける然れは友人は望を屬し學者は文を寄せて其祝を述ぶカルカクニニの手狀に「今や年若き婦人達の有樣を見るに皆々共に連れ立ちて春の野に此處彼處と浮れ歩行き百色花を摘み集め花環を纏ひ身に裝ふをもて身の務となしつるに獨り君は斯る風を負ふて香ひ風に逐われて散る寸時の花を賞て玉はで只モーゼスの園裡に香ふ不枯不凋ぬ雁來紅を摘み玉ふ……」とあり以て見るべし當時宮中にて文章會あるものあり古今の名文妙詩を會讀する會ありオリムピアは常に其の緒言としてラテンの一文を讀み上るの例となり來れるが其音の爽なる其語の 勢 ある滿坐の人をして泣かしめ笑はしめ怒らしめ喜ばしめ起ちて舞はしめ伏して哭せしむ其巧妙亦其一の長所なり聞くこれ亦其父の意をこめて薰陶せし所といふ且つ其幼時の作に屬する文章は載せて其遺稿中に在り玆處に載せずと雖も蓋し皆一世の傑作と知るべし殊に其詩の如き更に一層の妙味ありと云ふ幸此處に其十六才の時に作りしと云ふグリーキ語の詩一あり若し能くこれを味はゞ其才の卓絶なるを知るのみならず又當時の心情如何を察するに足るべしと雖も譯者か不文能く其の妙を盡す能はず又却りてこれを譯するの恐れ多きを覺ふ然れと萬にして僅かに其一を知らしむも知らさるに優るべければ敢て大方の尤を顧みず玆處に英和兩文を載せ讀者の劉覽に供す幸 に連城の一碎片と見玉へ

Never has the same object been the delight of all hearts. And never did Love give the same mind to all.: Castor was famed as a horse-tamer, Pollux for pugilism,
Though both twin sons of the same mother, Leda.
I though born a woman, have relinquished the pursuits of my sex.
Threads and Shuttle, and warp.
But the Muse's flowery mead and love,
And the joyous choirs of double-crested parnassus.
Other women may delight in other pursuits. These are my glory, These are my joy.

人の心はさま〴〵に
異なるものぞたのしかれ
同もに生れて血を分つリーダーぬしの二子とて
競馬に名あるはカスター氏拳法上手はポラックス
妾は女と生れつゝ女の業はうち棄てつ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

機、梭、絲、何處にや
たゞモーセスの花の露
パルナッス山の唱歌塲
人おの〳〵の業愛づれ
之れぞ妾の榮になり之ぞ妾の喜びなれ

（此傳未完）

寄書

○中島俊子女史の詩

新春芽出度御加齢被遊御多幸の御事と奉存候早々御年始可申上候處昨今は宛も京濱間の飛脚の如くして爲に御疎遠申上候罪不淺候舊冬御來訪を得し際妹へ當地に可止申上置候得共いろ〳〵の事情によりて一時横濱に可參心組と致し候乍然速急の事にも非れば又後に拜話可致と存候云々

　　

　　　岸本愛兄　　　　　　　　　　　　とし子

舊時月照舊時扉。獨有春風心事違。不解夢魂新律法。宵々笑我待君歸。
無奈君家君到難。庭前花柳共離肴。莫言今歳春尤暖。獨有愁人不耐寒。

○愛他心の蒔附　　麻布東洋英和女學校　　澤邊しげ子

左は去年十二月廿二日夜同校四年後期生澤邊子が演述ありたるものゝ筆記なりとして寄送ありたるものなり

私は愛他心蒔附と申す題で有觸れた御咄しを聊か申述ます。暫時御退屈を御忍び下さることを願ます

耶蘇救世主が人の心を田地に譬へられまして。よき種を蒔けば。よき實を穫。あしき種を蒔けば。あしき實を收むると。教へられましたが。其よき種と申す中にも。色々種類もございますが。私は先づ第一に愛他心の蒔附が肝要と考がへます。それは。此世の中は人智の開けるに從て皆爭ひを避け。平和に進みますからで。其一二を申しますれば。大昔の野蠻人わ。此群と彼群と互に殺し合ひ。奪ひましたのが。後には共に好みを結んで。互に利益を計り。又は一致して國を立つることとなり。始めは腕力の爭に長じた者を尙びましたのが。後には温和禮讓を貴ぶ風となり。殺戮を肆にした酋長は。仁德を以て立つ皇帝と替り。敵國を侵略する戰の器械は。國家の安寧を保つ備として用ゐられると申ますやうに。萬の事。萬の物。皆其面目を改めました。其源因は定めて色々ございますが。つまる所。爭奪を捨て。平和を取るの外ではございません。最も人には智愚强弱等の違ひがありますからして。彼れ是れ利害を異にし。人心爭ひを好むような有樣もございますが。それは只一時の事でたとへて申さば川筋が土地のもようによつて。あなた。こなたに。まがりまがつてをるやうな者で。つまり一般の大勢は平和の海に向て注ぎますことは。明でございます近世に至りましては、智識の進みも益々速でございますから、今より後は此勢力も獨盛に成り行く事でございます。されば之に從ふ時は榮へ。背く時は亡び一成一敗皆こゝに決する道理でございますから。一身一家及び一國の永存を計りますものは。此平和の大勢に伴なつて万事を計らねばなりません。己れを愛するの心を以て他人を愛せよとは。即ち此平和の生します大本で。智愚强弱等の差違も之に依て調和ができ。銘々の幸福も之に依て增すことが出來ます。若し此の他人を愛すると云ふとの今の世から取除けましたらば。今日の開明は依然として尙ほ光りを放つでございますか。必ず殺したり、奪たりと云ふくら暗みの有樣を現はすとになります。されば世に立つて事を成さんと致す者は。愛他の心を失なつてはならぬと故。幼稚の時此の蒔附が肝要と申すのでございます。世に酒色に耽つて放蕩者と呼ばれ。金錢を貪て守錢奴と嘲かれ。其他傲慢嫉妬等さま〴〵の惡しきことより。人に厭われ棄てられます者が間々ございますのは。只一つ此愛他心の欠から起ることでございます。山に玉あれば草木も皆潤ふとか申す如く。若し此優美の德を早より蒔附てありますれば。凡ての品行は自と全く。たとひ。一旦過つ事がありましても。忽ち改むることができます。さらば其蒔附には何ような器械何程の勞力を要しますかと申せば。只其母の注意によつて仕遂げられますもので別に資本も器械も入りません。其あらましを申せば。二つの菓物を與へ。他の一つを外の子供に與へさせ。又は其愛する草花などを傘長に牽らせ。持ち古した玩ひ物を貧兒に惠ませますと申すやうなとで只其相手の喜ぶ樣子を見まして。それを樂みに致しますようになりますれば。最早其半ばを仕遂げましたので。それから咄しを聞分る頃になりますれば。簡單なる修身の咄し。日、月、星、の咄しより其造り主のましますとに及び。漸く進んで神は他人を愛する者を。お愛しになると云ふ事。それから我儘を言ひ張ることの尤も惡しき譯を、よく〳〵心に入れなければなりません。

是れは餘程注意致さねばなりませんが。之れを能く合點いたさせますれば。之れが後は其生長を妨げることないませんように。培養いたすことでございます。既にかく致しますれば自から其心も。やさしく己に克つ事もできるように。なりまして自然と又他人の愛を受くることも多きより。益々温和にして心愛に富みます故。傲慢に流れ放蕩に陷るなどのことなく且つ才藝學識の之れを助けますより。他日身を立て。家を興し。國を益し。人を愛する。其結果の大なることは如何ばかりで、ございますか。そうして其始めは只母の注意にのみによることでございますから。此の蒔附は母の職分として片時も怠てはならぬ事と存ます。聖書に記して蒔くものは必ず獲ると御座います

新報

○寶冠章

嗚呼今年も亦た婦女子に幸福あるの年なる哉明治二十一年一月三日勅令第一號を以て總理大臣が旨を奉じ公布ありたるは寶冠章を勳一等より勳五等に至る婦人の勳勞ある者に賜ふとの儀なり黄紅の綬、竹櫻の章、として女勳を公明するを得るか嗚呼明治の婦女子も亦幸福なる哉

○跡見女學校

花蹊女史は兎も角日本女敎師の率先者なり其の跡見女學校は女子師範校未だ起らざるの先に起り女史の手に敎育を受けたる上流の花嫁は華族女學校未だ現はれざるの前に既に多く業を卒へり但だ其校則の稍や陳腐に屬して少しく時勢後れにては無きやと心配するものありしに今度校舍を新築し校則を改正し敎科書を一新し氣風を一洗されんとするの徵候を見たり故に女史の爲に祝し日本女學の爲に祝す

○湘煙女史　中島俊女史は是迄築地新榮女學校和漢學科を總理し且つ日々漢學を敎授せられたるが同女史が該校に關係さるゝことと成りてより未だ半歲たも經ざるに生徒の氣風殆んど一新し修學の摸樣も大に改まりし由にて同校長リート女史の如きは非常に之を歎謝し追ては俊女史を校長と爲し万事を委任せんと迄でに相考へ居られたる折柄中島信行君此度不慮の災に罹りて江戶お構ひの身分と成られたるに付ては女史も亦た共に橫濱に移住さるゝことと定まり不得止同校の敎授を辭せられたれば校員生徒一同ば非常に別を惜しみ遺憾の淚を揮へるゝ多しと云へり

○淑女以文會　同會は去る七日午後二時より神田區猿樂町の尙聚學校に於て今年の發會を開らきしに來會の淑女頗る多く音樂幷に賛成員波多野傳三郞、辰巳小次郞諸氏の演說あり散會せしは點燈前なりしと

○女生徒の乘馬　華族女校學にては本年の授業始めより乘馬教師を聘し有志の生徒へ稽古せしむると云ふ

○跡見女學校の開校式　今度小石川區柳町に新築せる同校は落成せるを以て去る八日開校式を擧行せり當日の來賓は北白川宮、小松宮御息所、伏見宮御息所、三條內大臣、同夫人、土方宮內大臣、鍋島式部長官、花房農商務次官、柳原權典侍、を始め華族及內外の貴女紳士無慮四百餘名にして式塲は校堂の中庭なる運動塲に設け午後一時卅分頃皆式塲に列し先つ校長代理萬里小路令孃は本校改築の主旨を陳へ次に生徒總代三條智惠子祝文を朗讀し續ひて三條內大臣、平尾竹子、英人サンマルス氏の祝文及び中村正直氏の演說ありて式を終へ夫より立食の饗應ありしが近衛樂隊は式の前及ひ立食等時間の代り目に奏樂を爲し又中庭には丸一の大神樂などありて興を添へたり夜に入て校堂の前面には牧野源三郞氏の發明にかゝる輕便電氣燈を點し庭園の周圍に無數の球燈を揭けたるなど盛なることにてありしと又同校新築の敷地は凡そ二千坪、總建物四百三十八坪餘、運動塲二百十坪、庭園千三百五十坪にして講堂、寄宿舍、食堂、浴室、客間を始しめ諸部殆んど完備せり

○看病婦卒業　東京慈惠院內看護婦敎養所生徒五名は先般卒業したるを以て去る十日卒業證書授與式を執行せしと云ふ

○女子英語敎授　今度芝區三田二丁目慶應義塾邸內に在住の英國人ローイド氏方にて每日午後三時より五時迄女敎師イースト孃及びローイド夫人等英語の敎授を引受け日本婦人をして其譯讀をも授るよし

○東京舞踏會　同會は來る廿二日午後六時より鹿鳴舘に於て本年初舞踏會を催ほし畢りて立食の宴を開かるゝ由

○大日本婦人敎育會　東京婦人敎育談話會は其組織を擴張し普く內外有志の婦人を募り每月一回講談會を開き學士を招待して百般の學藝の講演を依托し會名を大日本婦人敎育會と改め本月其發會を擧行せんとのとなり

○機職業　舊臘廿七日石川縣金澤區會に於て長町の桑園を代價凡そ二千五百圓に見積り本年早々賣拂ひ右代金を以て松ヶ枝町小學校跡建物內にて機職業を起し區內の子女をして該業に從事せしむることに決したりと

○工女の數　同金澤區內に於て製絲等に從事する舊臘調べの工女の數を聞くにハンケチーフ工女三百七十八人製絲工女七百卅二人機織工女九百二十人總計二千〇三十人なりと

○私立神戶幼稚園　同園にては豫て世界幼稚園の開祖フリューベル氏の肖像額面並にキューレル、センデン兩氏の幼兒口授書を居留地廿五番ファバー、ボイト商會へ注文なしたる所此度該品は同商會より改めて寄附したるよし元來同幼稚園は別に維持費と云へるものなく幼兒より納むる保育料を以て專ら之に充る筈なるが近來に至り金圓又は物品を寄附する內外人多く同園は爲に大なる便利を得るとの事なり

○幼稚園設置　美作國津山內山下高等小學校跡へ幼稚園を設置し其室を整頓して既に恩物器具等を買入れ保姆も定まりて本月より開園するよし

○藤岡婦人會　は去る五日午後一時より高山社にて開會せり第一編物稽古（ミス、ミリケン敎授）第二邦語唱歌第三開會の主意（主事佐々木夫人演）第四婦女の美德（茂木けん子演）次ぎに東京櫻井女學校敎師ミス、ミリケン同ミス、デビスの英語演說あり通譯者は前橋敎會牧師不破唯次郞氏にて此の演說談話の間每にミス、デビスのヲルガンを奏せらるゝあり會衆殆ど二百名當地へは西洋婦人の來られしは今回が初めてなれば皆ゝ餘程感情を起せし樣子にて頗る盛會なりしとのとなり

○淸風會　上州前橋大渡製糸所は生糸業改良模範に供する目的を以て創立したるものなれば萬事他の工塲とは異にして器械の完備し工女管理の如きも能く整ひて品行方正事業に勉勵するのみならず業務の餘暇脩身の藝を講究する等自然囑望の所ありしが尙ほ進んで淸風會なる一會を設立し業暇を以て衆庶を會し敎師を聘して漸次に智藝の發達を圖り無職を以て甘せし處の工女をして人間普通の敎化を得せしめんとの主意にて講師は中學校々長伴德正君及び遠山精三君に依托せし處共に大に此擧を賛成せられ承諾を得たりと某氏より報じ越されたりしが此の如き美擧の各地に起らんこと記者の切に望む所なり

○女生徒の洋服　秋田尋常師範學科女生徒の洋服は先般東京より着荷せりとのことなりしが此の元旦に始めて洋裝をなして拜賀に出でたりとて途上二八の西洋美人（服裝のみ）に逢ふと多かりき老人云ふ此新衣裳を着て新年を迎ふ氣力自づから新ならんと兒童云ふ元旦より小さき西洋婦人の多きは何ぞやと二者各一理あり然れども若し新衣裳を着くるのみにて新氣力を以て勉强せざるときは女生徒誤てり老人笑ふ兒童「ペケ」と云はんと秋田日々新聞に見へたり

特別廣告

東京婦人矯風會錄事

十二月十日 議員會を佐々城豊壽宅に於て開く

決約

一 指命委員四名
加藤とし
串田志げ
富益みつ
高村よし

一 寄附金委員二名
串田しげ
潮田ちせ

一 婦人矯風會雜誌を出板すること

一 淺草區幷に內神田ハ日本橋區に外神田ハ下谷に加はる

十二月中入會者

高村ます　鵜殿みね　和田垣つあ　中島しん
中川みき　堀田みな　木津かよ　村井かね
大井まき　楚山しげ　山本ゆき　森山やす
藤村みね　栗原とよ　中島かな　村井ふみ
大島ふじ　鈴木よしの　長谷川すゞ　村井みわ
小出ちか　木村すみ　中澤みす　田中きん
米村とよ　寺島うめ
特別會員　山本喜道　村井直道　中澤廣治
岩方直次郎　田中貫一　砂川秀一郎

〆三十二人

廣告

看護婦生徒召募廣告

看護婦生徒志願ノ者試驗ノ上數名募集ス來廿日迄ニ願書差出スベシ

但シ年齡廿歳以上三十歳以下獨身ニシテ健康ノ者ニ限ル

撿查概目

讀書　本所規則書並ニ翻譯文　作文　通常書翰往復

算術　加減乘除

明治二十一年一月

東京慈惠醫院看護婦教育所

小生義旅行罷在候に付新年參賀の禮を欠き候此段乍略義茲に御斷り申上置候也

一月一日

於名古屋 三枝光太郎

辱交諸兄姉尊下

化學發明 實地有効 各種傳授廣告

簡便實益 改良色染法　謝金 三圓

醬油釀造法　謝金 二圓

和洋改良 茶を製する法　謝金 二圓

桑の樹栽培法　謝金 一圓

右の各種は理化學の作用に依り本舍實驗の上其成効を確認し廣く世人に傳授する儀あれば勿論記載の謝金ハ全納して傳授すべき筈の處方今傳授云々の廣告をなし世人に不快を感せしむるもの往々有之由に付き本舍ハ謝金の**半額**位實地に付き其有効を試認の上殘り半額を前收して傳授秘錄を送呈し各付き本舍ハ謝金の半額を領收するの規則と相定候

大坂谷町一丁目二十五番地

國益舍主石原成軒

通俗理科叢談

通俗理科叢談は石井よを氏著東京教育社の出版にて一部代價十六錢なり書中にハ地震雷電水空氣等を始めとし凡そ吾人の目に見え耳に聞ゆる種々雜多なる面白き事可笑しき事嬉しき事恐ろしき事どもを科學の順序に從て書き集めり文はふりかな付き談話躰にて深遠高妙の理を說き明せり近時無二の新著なり苟も本書を一覽せば敎師は理科を授くるの妙手を得兒童ハ師に就かすして理科に通し父母は家庭の敎へをなすに益あるべし二冊以下陸續發行するなり

發行所　東京日本橋區本町二丁目一番地

東京教育社

移轉廣告

今般肩書の地に移轉仕候間此段辱知諸君に廣告す

小石川區小石川柳町廿七番地

跡見花蹊

女生徒募集

本校儀從前の校舍狹隘なるを以て左の處に建築落成候に付新に寄宿生通學生の入學を許す有志の諸君速に申込あれ

小石川區小石川柳町廿七番地

私立跡見女學校

明治廿年十二月廿五日發兌

教育時論

第九十七號概目　一册定價五錢郵稅一錢

社說 ●本年中敎育の要領 **教育** ●大日本敎育會の會友に質す(如水生)●手の功用(町田則文)●算術科敎授法の事(山本善次郎)●修身科試驗に付いて(瀧岡太郎)●分科敎授の得失(峯是三郎)●學務擔當書記の撰任に付き一言す(ＨＫ)●獨逸の育兒法(中川重麗譯) **哲學** ●天才及早熟(橋本武譯)●心意彙類法(俗因氏心理學附錄)(高橋治三郎譯) **文藝** ●かなぶみ(す、ら、)●カラ、イン、ライト夫人の德を慕ひて(大江安之介)●和歌(郡司篤則)●詩(土屋重正)●戶外遊戲法(古川鐵藏)●彌再學術傳(町田則文、田中登作兩氏合譯) **問答** ●小學尋常科を通じて圖畫科を加へ殊に同科一年の習字を廢して專ら一圖畫に改むること如何の答(金澤長吉)同(村尾愼太郎)●質疑(郡司篤則) **內外雜纂**

發兌所　東京下谷區練塀町　開發社

發兌

一月。七日　十四日　廿一日　廿八日
二月。四日　十一日　十八日　廿五日
三月。四日　十一日　十八日　廿五日
四月。七日　十四日　廿一日　廿八日

定價

一册。五錢　郵稅。一錢（但府內無郵稅）
十册。四十八錢郵稅。十錢（同前）
半年分　一圓十七錢　府外は　一圓四十三錢
一年分　二圓卅四錢　府外は　二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する每に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む

一行一回（廿七字詰）前金拾錢
同三回以上　一割引
同六回以上　二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町鐵々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町眞明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本鄉區元富士町盛春堂○同本鄉區春木町二丁目興明堂○同本鄉四丁目文春堂○橫濱住吉町角田屋貞○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出屋○京都四條通小橋西へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彥根西內大工町新々堂○相州小田原緑町石春堂○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知本町三丁目樂園堂○熊本文明堂

發行所　本局　東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社

編輯兼發行人　巖本善治

印刷　森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price *5 sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.